

民謡踊りに出合っつて60年

五輪音頭も万博音頭もソクソク

西川 経實さん

(楠 町 東)



終戦後は社交ダンスやフォークダンスが盛んになり、大阪でも仕事帰りにフォークダンスを楽しむ人が一気増えたものでした。楠町東に住んでいる西川経實（にしかわ・つねみ）さん（84）も流行に乗って、仕事が終わればフォークダンスに興じていました。ある日、仲間から「狭山で民謡踊りの指導をしてい

るので、一緒にやりませんか」と誘われ、外国も日本も「癒やす」心に違いはないと思ひ、仲間に入ることになったのが民謡、新舞踊を始めたきっかけとなりました。日本民謡連盟公認指導員、新舞踊山吹流総師範の資格を得て、南河内地域で講習会を開くようになり、60年が経ちました。

市の文化祭・市民祭り・盆踊りなどに大勢で参加して楽しむようになりました。河内長野ラプリーホルの柿落し（こけらおとし）で舞台を踏んだのも良い思い出です。働き盛りの頃、仕事が終わると教室に駆け付けて、汗を流しました。敬老の日



発表会に出演した時のメンバー

の前後は各地区での発表会が続き特に忙しい。その頃の仲間とは30年以上の付き合いが続いています。

踊りにつきものの「着物」「小道具」の刀や槍・傘・扇子などは、持ち歩いたり、教室ごとに置いたりでしたが、管理には気を配り、中でも着物は大切に手入れし

たそうです。「私自身の踊りは80歳で定年としました。曲に合わせる踊るものの、昔の様にはいきません。回転が難しいのです」

しかし、夏が近づき、盆踊りのはやしが開こえてくると、知らぬ間に手足が動き、驚くことも…。

人生100年時代 明日はいかに輝くか！

「歌は世につれ、世は歌につれ」と言いますが、もう一つ踊りも付きものではないでしょうか。

「五輪音頭のにぎやかさ、万博音頭のわくわく感。オリンピックも万博も、再び開かれると思うとぞくぞくします」

最近では、EXILEやAKBなど、早いリズムのダンスが全盛期です。

来たるべき大イベントで、西川さんたちの出番があるのかないのか。84歳の今日まで、買った物

やハイキングに元気で出かけることができるのは、踊りで鍛えた足のおかげ、「芸は身を助く」としみじみ感じておられるようです。盆踊りの時期には夫婦そろって出かけ、昔の仲間と会い、旧交を温めるのを楽しみにしているようです。手足がむずむずして踊りたい気持ちを抑えきれないときもぐつと自重して、身体をいたわり、余生を満喫しています。

(取材・辻野 長夫)
(編集・桑本 幸子)